

平成 29 年 4 月 25 日

羽黒修験に集いし輩(ともがら)の皆様へ

羽黒修験に集いし輩の集団
一般社団法人出羽三山羽黒山伏会
会長 羽黒派古修験道「秋の峰」先達山伏
貢晴(こうせい) 事 田代貢一
他 理事・監事並びに都道府県支部長実務担当役員一同
本部事務局
〒998-0054 山形県酒田市宮野浦 1-14-11
Tel 0234-41-0383 Fax 0234-41-0383
E-Mail HAGUROYAMABUSIKAI@hotmail.co.jp
Homepage <http://haguroyamabusi.sakura.ne.jp>

第七回 一般社団法人出羽三山羽黒山伏会「定例行事」のご案内

拝啓

いよいよご清栄のこととお喜び申し上げます。

来る 6 月 24 日(土曜日)午後 1 時より、一泊二日間の下記の次第によりまして、第七回 一般社団法人出羽三山羽黒山伏会「定例行事(羽黒山 出羽神社・三神合祭殿 昇殿正式参拝、一般社団法人出羽三山羽黒山伏会 定期総会、出羽三山信仰事業 羽黒修験研修会、羽黒修験に集いし輩の集団 親睦会直会、羽黒山庭上 清掃作務、羽黒山 出羽神社・三神合祭殿 朝御饌参列)」を齋行することに致しました。

当法人会員の皆様には、ご多用中まことに恐れ入りますが、是非とも万障お繰り合わせの上ご参列くださいますようお願い申し上げます。

敬具

記

羽黒山 出羽神社・三神合祭殿 一般社団法人出羽三山羽黒山伏会「昇殿正式参拝」

■ご集合並びに受付の日時と場所

平成 29 年 6 月 24 日(土曜日) 午前 11 時 ご集合並びに受付開始 羽黒山参籠所「齋館」

※受付をお済みの参列者は本部事務局へ事前申し込みのお弁当昼食並びに暫時ご休憩

■「昇殿正式参拝」の時間と場所

平成 29 年 6 月 24 日(土曜日)午後 1 時 羽黒山 出羽神社・三神合祭殿「昇殿正式参拝」

※昇殿正式参拝時の服装は、装束着用の場合、御忌衣、白衣、白袴、太多須喜か注連掛。私服着用の場合、私服に重ねて御忌衣(御忌衣をお持ちでない方は私服のままにてご参列)、胸襟に当法人会員章、太多須喜か注連掛を帯用し、ご参列をお願い致します。会員章をお持ちでない方(頒価 1,000 円)、お注連掛(一掛 600 円)が必要な方は本部事務局にお申しで頂ければと存じます。

(1)羽黒山参籠所「齋館」での受付におきましては当法人本年度会費として「当日会費」をご受領申し上げます。

当日会費、お一人様 15,000 円 (本年度年会費 3,000 円分を含む)

①当日会費には、当法人の主要事業である「定例行事」齋行費の正式参拝御初穂料、研修費、親睦会費、「齋館」宿泊費、他行事運営等の管理費を含め積算致しました。

②ご案内の通り、当法人の定例行事は一泊二日間の日程で齋行いたします。

止むを得ない事由により宿泊できない会員の方は、同封したご出欠確認用返信ハガキ **事務局へのご連絡**スペースをご利用の上、**事前に事務局までお申し出下さい**。齋行当日に受付にて受領する当法人の本年度会費「当日会費」より、宿泊料金を減額するご調整をさせていただきます。

宿泊しない場合の当日会費

お一人様 10,000 円(親睦会費と本年度年会費 3,000 円分を含む)

③「羽黒山伏会」昇殿正式参拝に合わせ「個人祈祷(一件 5,000 円より)」をご希望される方は、当法人受付にてお手続きを申し受けます。当日の受付は混雑が予想されますので、「個人祈祷」をご希望される方は、受付の時間をお早めに予定され、ご参列頂ければと存じます。この点、皆様よりのご協力をお願い申し上げます。

(2)昇殿正式参拝 午後 1 時

羽黒山参籠所「齋館」より羽黒山 出羽(いでは)神社・三神合祭殿へ山廊を移動

(3)記念写真撮影 午後 2 時以降に三神合祭殿客殿の間(予定)にて集合写真の撮影。

(4)羽黒山参籠所 羽黒山 出羽神社・三神合祭殿より羽黒山参籠所「齋館」へ山廊を移動

平成 29 年度 第 7 回 一般社団法人出羽三山羽黒山伏会「定期総会」

日時 平成 29 年 6 月 24 日(土曜日) 午後 2 時 40 分開会～閉会午後 3 時 40 分
場所 羽黒山参籠所「斎館」 ℡0235-62-2357

- 1.開会
- 2.会長挨拶
- 3.議長選出
- 4.議案

第 1 号議案 一般社団法人出羽三山羽黒山伏会 業務執行ご報告の件

- ・平成 28 年度収支決算と事業報告並びに監査報告について
- ・平成 29 年度 事業計画と予算の提案について
- ・実務担当役員の変更及び新任担当役員ご承認について
- ・新規入会者の状況について
- ・ホームページ運用状況/会員章謹呈/お忌衣(おみごろも)頒価提供/その他

第 2 号議案「羽黒修験研修会」出羽三山信仰事業の件

- ・出羽三山神社主な祭事行事への当法人代表の参列について
- ・湯殿山信仰の原点を探る
「出羽の歴史道六十里越街道を駆け湯殿山仙人沢に褌ぐ」羽黒修験研修会開催
- ・第 3 回「羽黒山伏 輩の集い」開催
- ・一般社団法人出羽三山羽黒山伏会巡回写真展「蘇る神気」開催

第 3 号議案 その他関連議案の討議の件

- 5.閉会

一般社団法人出羽三山羽黒山伏会 第 7 回「羽黒修験研修会」

日時 平成 29 年 6 月 24 日(土曜日) 開会午後 4 時 00 分～閉会午後 5 時 10 分
場所 羽黒山参籠所「斎館」 ℡0235-62-2357

- 1.開会の挨拶
- 2.研修会講師ご紹介…一般社団法人出羽三山羽黒山伏会 副会長
- 3.「羽黒修験研修会」
テーマ：出羽三山信仰の参籠所「羽黒宿坊の今昔」
講師：出羽三山崇敬講社本部
羽黒山三光院 粕谷典海 様
質疑応答…司会役進行
- 4.ご講演への御礼挨拶…一般社団法人出羽三山羽黒山伏会 副会長
- 5.閉会の挨拶
- 6.集合写真の撮影

事務局よりご連絡…一般社団法人出羽三山羽黒山伏会 事務局長

※参列者ご一同、暫時休息の後に親睦会(直会)会場にご集合頂きます。

一般社団法人出羽三山羽黒山伏会「親睦会(直会)」

日時 平成 29 年 6 月 24 日(土曜日) 午後 5 時 20 分開会～9 時 00 分閉会
場所 羽黒山参籠所「斎館」 ℡0235-62-2357

- 1.開会の挨拶
- 2.一般社団法人出羽三山羽黒山伏会 副会長挨拶
- 3.御来賓ご挨拶
- 4.乾杯ご発声
- 5.自己紹介
- 6.万歳三唱(中締め)
- 7.閉会の挨拶

出羽三山羽黒山伏会「羽黒山庭上の清掃作務」

日時 平成 29 年 6 月 25 日(日曜日) 午前 6 時~午前 6 時 30 分

場所 羽黒山庭上

※雨天時を別にして 30 分ほどの清掃作務を予定しております。
※清掃袋や軍手は本部事務局が準備し、庭上にてお渡しいたします。

羽黒山 出羽神社・三神合祭殿「朝御饌祭 参列」

日時 平成 29 年 6 月 25 日(日曜日) 午前 7 時

場所 羽黒山 出羽(いでは)神社・三神合祭殿

羽黒山参籠所 齋館にて「御朝食」

日時 平成 29 年 6 月 25 日(日曜日) 午前 8 時~

場所 羽黒山参籠所「齋館」御神前の間

※暫時休息の後に、ご参列者各自のご予定に合わせ、随時解散いたします。

※羽黒山伏会定例行事の折に撮影した「記念集合写真」のお渡しは、事後、ご参列「御礼状」と総会にてご承認の「収支決算書と収支予算書並びに事業報告書並びに事業計画書」と共にお届け致しますので、それまで少しのお時間をお借り致します。

お知らせ

一般社団法人出羽三山羽黒山伏会 出羽三山信仰事業統括管理部
お帰りの予定時間に余裕がある参列者の場合、ご希望に応じて、羽黒山
荒澤寺正善院黄金堂「於竹大日如来と大日堂」ご参拝のご案内を申し
上げます。

場所:羽黒山荒澤寺正善院 〒997-0211 山形県鶴岡市羽黒町手向字手向232番地

参拝時間:午前9時~午後4時30分

参拝料:500円

<於竹大日如来とは>

羽黒町にゆかりのある、江戸時代のお話をご紹介します。

江戸時代のはじめ、江戸庶民の間で「生き仏」と慕われ、江戸中に一大信仰ブームを巻き起こした一人の女性がいました。

この女性、お竹さんは、1622(元和 8)年、手向村(現鶴岡市羽黒町手向)に生まれました。

18歳の時に江戸日本橋の豪商・佐久間家に女中奉公に入ります。

お竹さんは、気立てが優しく、赤い襷に前掛け姿で朝早くから炊事場に立つ働き者だったのです。阿弥陀如来を深く信仰しており、自らの食べ物を節約しては飢えた人や動物に与え、自分は台所の流しに麻袋をさげて集めた残飯を洗って煮て食べるなど、食べ物を大切にしている人でした。

1672(寛文 12)年、そんな慈悲深いお竹さんの姿を大日如来だと夢に見た湯殿山行者と羽黒山伏行者は、於竹さんの奉公先を必死に探し出し、訪れて、「お竹は大日如来の化身である」と佐久間家の主人に告げたのでございます。それを聞いた佐久間家の主人は、お竹さんに女中奉公をやめさせ、持仏堂を造り、念仏に専念させたのでございました。お竹さんは人々の悩みを親身に受けて聞き、仏の道を説き、1680(延宝8)年、58歳でこの世を去ったのでございます。佐久間家の主人は大変に悲しみ、お竹さんの献身的な奉公に報いるため高さ9尺余りの大日如来像を作り佐久間家の菩提寺、親族の菩提寺に祀ったのでございます。

この様なお竹さんの話に感動した徳川5代将軍綱吉の母・桂昌院は、「奉公人の鑑」と称えて歌にも詠み、徳川家の菩提寺内の心光院にお竹さんの流し板を祀り、奥女中に信仰させたのでした。このことをきっかけにして「於竹大日如来」は江戸庶民の間で一大ブームとなり、参詣する者が絶えなかったという。ブームとなった江戸の町では、講釈、歌、錦絵、浮世絵、歌舞伎、などの題材にもなり、坪内逍遙によっても芝居が上演され、小林一茶の俳句にも詠まれたという。

こうして「お竹大日如来」として江戸中にその信仰が広がったのでございます。当時、回向院で数度にわたる羽黒山行者による出開帳も行われたと言っております。

その後 佐久間家では、大日如来像をお竹さんの生まれ故郷である羽黒山麓に祀ったほうが良いと考え、江戸の職人を大勢引き連れて、羽黒山正善院黄金堂の境内に「於竹大日堂」を建て、後に江戸から移されたと言われる於竹さんの等身大の大日如来を安置しました。

於竹大日如来は、歳月とともに江戸の人々の記憶から次第に遠のくこととなりましたが、没後300有余年たった現在でも、一部の「於竹」を偲ぶ保存会や菩提寺においては毎年、於竹の命日とされる5月19日に於竹を祀る各種行事がとり行われている。お竹さんのように、気立ての優しいお嫁さんや良い奉公人を求めて於竹大日堂へ参詣にやってくる人も多いそうでございます。 以上